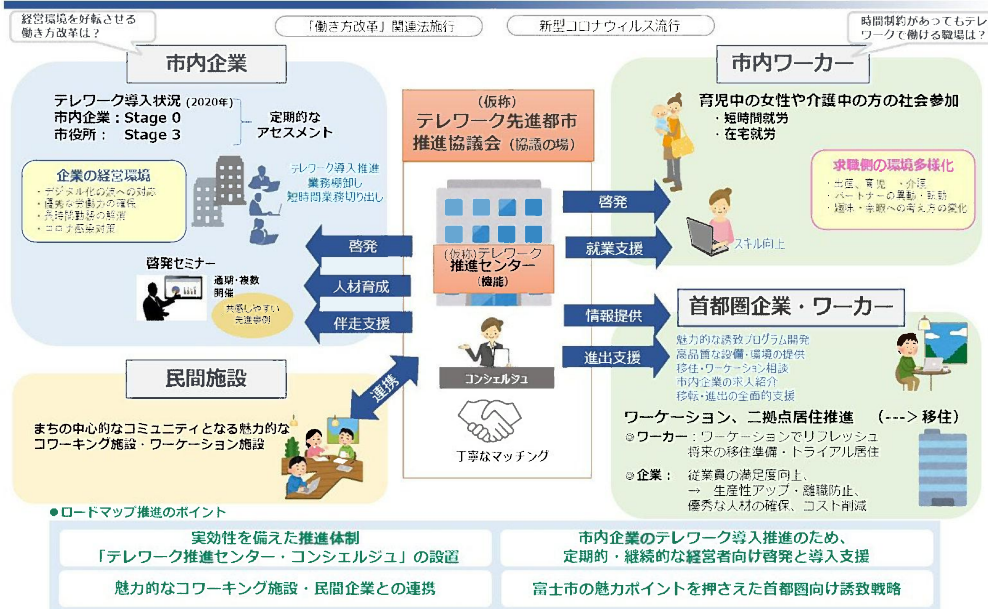


3. ロードマップ推進体制



令和3年3月

富士市産業経済部 産業政策課

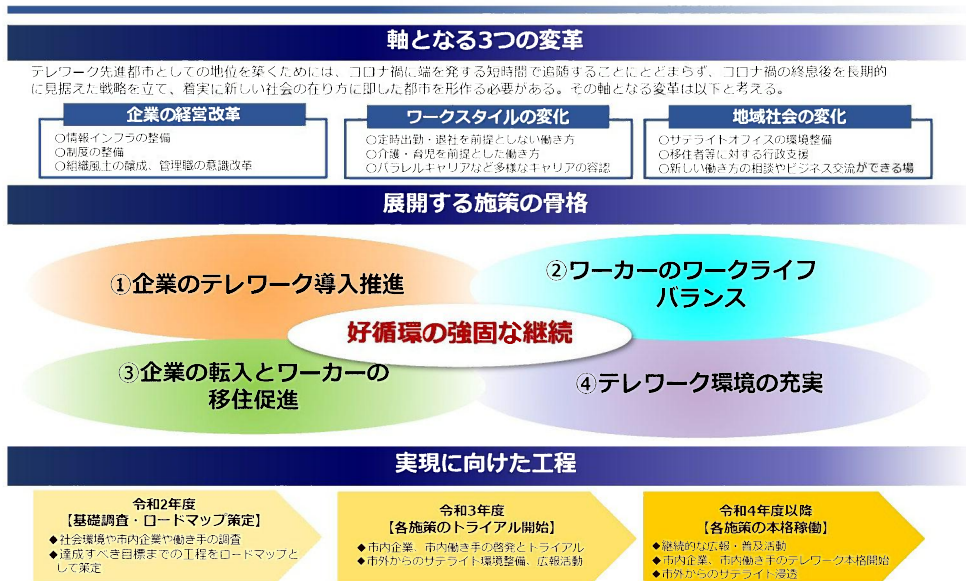
・本ロードマップは、テレワークニーズの高まり等を受け、「テレワーク先進都市」の実現を目指すために、市内事業所のテレワーク導入促進や首都圏等からのテレワークを実施する企業の誘致、及びテレワーカーの受け入れ等に繋げる工程などを掲げたものである。

・全国でも前例のないテレワーク先進都市として目指す将来像を設定し、今後5年間（令和7年度まで）の具体的な取組や推進体制を示すものである。

4. 主な取組・施策

カテゴリ	施策名	内容・目的	担当組織
推進主体	(仮称) TW推進協議会 (協議の場)	・ TW推進の中心となる会議体。関連する分野の団体で構成。分科会 (4つ程度) が設置される。	協議会
	(仮称) TW推進センター (機能)	・ 当初は市役所が主導するが、TW推進の機能が集まるテレワーク推進センター (仮称) を設置する。	ホ→センター
	TW推進コンシェルジュ	・ 市内企業・市内ワーカー・外部からの問い合わせの窓口であり、協議会の事務局を務める。	ホ→センター
	TWスキル指導員	・ TWの実践に必要なスキルを市内企業・市内ワーカーなどに指導する。セミナーの講師を務める。	ホ→センター
啓発・教育	TW推進アドバイザー	・ ロードマップの最適な実現に向け、協議会・市役所・コンシェルジュに助言を行う。	市
	セミナー・講座	・ 市内企業向け：TW導入の必要性やメリットを啓発するセミナー、導入の手順を教える講座。 ・ 市内ワーカー向け：①、TWへの働き方を啓発するセミナー。 ②、短時間就労希望者へのスキルアップトレーニング。	ホ→センター 分科会
	啓発コンテンツ	・ セミナー・講座の内容、市内の先行導入事例を、資料や動画でWeb公開。 ・ トライアルセット：TWを始めるための情報をまとめた配布物を作成し拡散する。	ホ→センター
	TW推進Web	・ 富士市のテレワークに関する情報が全て集約されているWebサイト。	ホ→センター 分科会
就労支援・マッチング	交流コミュニティ	・ TWを実践する人や企業が集まり、相談したり情報交換する場を創設する。 ・ リアル：民間コワーキングスペースなどの機能として形成する。 ・ オンライン：SNSなどオンライン上でコミュニティを形成。リアルでのコミュニティと連動。首都圏企業・ワーカーにも入りやすい企画の工夫と体制づくりを行う。	ホ、分科会、 コワーキングスペース等 → センター
	市内ワーカー人材マッチング UJターン人材マッチング	・ 企業向けにテレワーカーや短時間就労の求人を啓発し、市内ワーカー、UJターン人材とのマッチングを行う。民間コワーキングスペースでのイベントなども企画する。 ・ UJターン者には、首都圏でのPRを実施し、オンラインでは相談と受付・交流を行う。	ホ、分科会、 コワーキングスペース等 → センター
助成金・補助金 等	環境・施設・TW住宅環境等の整備費補助	・ コワーキングスペースなどのTW関連施設、装置や什器等の整備に対する費用を補助する。 ・ 企業のTW導入や短時間就労の求人・積極的な企業への奨励金なども検討する。	市(国の予算の活用)
	首都圏企業や流入ワーカーへの費用補助	・ 首都圏企業やワーカーなどが、富士市に拠点を構えたり、移住 (二拠点生活含む) した場合に、入居のロスや家賃、東京への交通費を補助して、富士市内への流入を促す。	市(国の予算の活用)
調査	テレワークアセスメント	・ 市内企業やTW導入状況を毎年定点アンケート調査を行う。	ホ→センター 分科会
PR	広報戦略の策定	・ それぞれの企画が開始し始める前にも、構想の発表や既存の取組の広報を行う。全体の整備計画と連動し、先々までの広報戦略を作ったPR活動を行う。オンラインでも活用する。	ホ→センター 分科会

1. 全体イメージ



2. テレワーク先進都市への工程 5年後（令和7年度）の達成指標にむけて

		※ Stage	0	1	2	3	4			
		状況	無関心	関心・検討	施行実施	本格導入	利活用			
方策	項目	課題	施策	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (達成すべき指標)		
1	市内企業	※ Stage0 : 78% Stage3-4 : 20%	啓発セミナー 啓発コンテンツ TW個別相談 施設・環境整備	Stage 0・1層に集中的に実施 啓発内容を重点的に整備 市内TW拠点への展開促進 TWアドバイザーが実施 TWスキル指導員が実施			TWの高度活用や先進事例にシフト TW推進センターが個別指導を展開	Stage0 : 50%以下 Stage3-4 : 40%以上	セミナー・相談会参加者 : 累計 : 1,000人	短時間就労・TW求人 累計 : 200人
		短時間勤務求人 の少なさ	短時間求人 ・就労	Stage 4 向け啓発 Stage 2・3層へ拡大			TW推進センターによる求人マッチング			
2	市内ワーカー	育児中のフルタイム勤務	啓発セミナー スキルトレーニング 子育て施設に TWスペース	Stage 0・1向け 短時間勤務啓発 コンテンツ開発 講師育成 啓発セミナー スキルトレーニング			啓発セミナー / スキルトレーニング	スキルトレーニング参加者 累計 : 1,000人		
	コワーキング スペース	テレワークスポット の少なさ	子育て施設に TWスペース 拠点整備・ 活動支援	在宅テレワーク環境整備補助 子育て施設にTWスペース設置			拡大・活用促進	年間コワーキング利用者 : 延べ4,000人	交流コミュニティ: 100社 / 400人	
3	首都圏企業	(富士市) 候補地としての優位性	ワーケーション 企業誘致 モニターツアー	ターゲット明確化・ プログラム開発 トライアル開始	ワーケーションプログラム稼働 ベンチャー企業向けプログラム モニターツアー 本格稼働		稼働	ワーケーション参加者 : 累計 : 300人	流入企業 : 10社	
	首都圏 ワーカー	ワーケーション・ 拠点居住の促進	出身者コミュニティ UJIターンマッチング	アプローチ 手法開発 マッチング施策 展開準備	出身者コミュニティ 拡充 UJIターン マッチング施策		出身者コミュニティ 展開	移住者 : 25人	創出関係人口 : 300人	
4	産学民官	大学・企業との 連携強化	大学・企業・ 他地域 連携	連携先の開拓・公募 他地域事例調査	連携施策 展開		連携施策 展開 他地域事例調査	連携事業・協定 : 10団体 (大学含む)		
	マーケティング	富士市の 特長の訴求	TW先進都市として 富士市の優位	メッセージ開発・展開	「行きたくなる」コンテンツ 展開		「行きたくなる」コンテンツ 拡充	情報発信回数 : 12回/年		
	PR		Web/SNS/Event	定期的なニュースリリース・認知向上イベント			定期的なニュースリリース・ 認知向上イベント 拡充			
	テレワーク 推進基盤		TW先進都市 推進協議会 TW推進センター TW推進Web 交流コミュニティ コンシェルジュ TWスキル指導員 TWアドバイザー 定点調査	協議会・ 推進センター・ 推進Web・ 交流コミュニティ 立上げ TWアドバイザー による指導	体制強化・拡充 推進Webコンテンツ拡充・定期的な更新 コミュニティ (対面とオンライン) 活性化 TWスキル指導員が実施		正式運用開始 専門家による 市内企業向けTW個別指導を展開	TW推進センター利用者 : 年間8,000人	交流コミュニティ登録者 : 1,000人	
				各対象向け 定点観測の実施 1.市内企業向け 2. 市内ワーカー向け 3. 首都圏企業向け						

テレワーク推進センター (機能) 設立